

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300028		
法人名	医療法人社団 康晏堂 石内医院		
事業所名	グループホーム「東海の里」	ユニット名	輝輝館
所在地	宮崎県延岡市水尻町225番地1		
自己評価作成日	令和3年9月4日	評価結果市町村受理日	令和3年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和3年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所理念「今を喜ぶ」を具現化すべく、入居者様が安心して生活していただき、できる限りお1人お1人、それぞれのペースで過ごすことができるよう、声かけや対応を工夫している。
 ・その方に対し、良い対応支援があった時にはスタッフに周知し、統一したケアが行えるように努めている。
 ・利用者様の要望に対して、スピーチロックをしない。今すぐにはできないことに対しても説明を行い理解を得るように心がけている。
 ・身体拘束を行わない努力と工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方と利用者が相互に交流する機会を増やし地域との繋がりを大切にしているホームである。運営推進会議には母体法人の医師や薬剤師をはじめ、地域有識者の参加もあり専門的な意見も参考に日々の支援に取り組んでいる。母体法人の医師は往診日以外にも立ち寄りなど利用者の安心安全に配慮し、最後までその人らしく生活できるように職員と共に日々の支援に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症のため思うように動きが取れない日々の中で広い園庭を活用し利用者の散歩など寄り添う支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定例会議で理念の唱和をすることで改めて初心に戻り、利用者様が喜んで生活していけるような支援をすることを心掛けて取り組んでいる。		「今を喜ぶ」を基本理念とし会議での唱和を行い、意識付けと共に日々の支援に生かされるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナ禍で難しいが、例年は地域の方のホーム行事参加や利用者様の地域行事参加により交流を図っている。		ホームとして自治会にも加入しており、地域の方の訪問や地域行事の参加など交流が図られている。今はコロナ禍で難しい状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で区長、民生委員等に情報をお伝えしてその方々から地域の皆様へと伝えて貰っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催して参加者の意見や要望に関して話し合い、情報を交換しその内容を議事録に起こして回覧することで職員も周知しサービス向上に活かせるようにしている。		会議には地域の方や医師、知見者、薬剤師、家族代表など様々な方の参加を得ている。ホームの現況報告と共に専門的な意見や情報交換がなされサービスの向上へ生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村に報告をすることがあるときには管理者に報告し、管理者から市町村に報告を行っている。そのような形で協力関係を築いている。		市の担当者は運営推進会議にも参加している。管理者は直接電話やメールなどでも連携を図り協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会で学習し理解を深めてケアに取り組んでいるが、利用者様の身に危険が及びそうな場合には4点柵や門扉を閉める等の対応をしている。		身体拘束の研修に参加した職員を中心に、ホームでの勉強会を実施している。スピーチロックや身体拘束の弊害を理解し日々の支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加した職員から勉強会等を行い、虐待防止の認識を持ちながら支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修で権利擁護について学び、制度の理解を深めたが日々の支援の中では忘れてしまっている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約締結時に十分な説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの意見や要望があった場合には話を聞き、リーダーや管理者に伝えるようにしてユニット内で話し合い、反映させるようにしていると思う。		家族には意見や要望が出しやすい雰囲気づくりに努めている。リモートでの面会も伝えており運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議で意見交換の機会がある為反映されている。その他気になることがある時には随時管理者に聞くようにしている。		定例会議や勉強会の中でコミュニケーションを図り意見や提案が出しやすい雰囲気づくりに努めている。職員からの要望で車椅子のまま乗れる体重計も導入されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員採用、福利厚生面は充実しているが、やりがいを感じ向上心を持って働ける職場環境だとは言いきれない。まだまだ介護職の給与の水準が低すぎると感じる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を与えてもらい少しずつではあるが知識を身に付けることが出来ている。認知症の方への対応等をもっと深く学びたいと思う。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により外部研修を受けることが難しくなっている。しかしリモート研修を受けることで、情報交換が出来る機会が持っている。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ユニットリーダーが行っている。入居後は、本人をよく観察するように努めている。利用者の話を聞くようにして、安心して生活が出来るような環境を作るよう心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ユニットリーダーが行っている。入居後は、ご家族が面会に来た時に意見や要望があれば耳を傾けるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、必要な支援を聞いたうえで、ケアプランの作成を行っている。また、入居者の状態の変化に応じて適切な支援に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは手伝って貰い、感謝の気持ちを伝える言葉を発するように心掛けて、共に助け合い生活していると感じて貰えるように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームのイベントへの参加を促し、施設に足を運んで貰い離れて暮らしていても少しでも多く本人と関わられるよう努めている。花みずきで本人の近況を伝えて関心を持って貰えるように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との関係はコロナ禍でも行えているが、友人や知人との面会等は行えていない。しかし日々の会話の中で思い出したり、懐かしんで貰えるように努めている。	利用者の馴染みの事柄を職員も共有し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう工夫し努力している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や表情を観察しながら上手く関わっていけるような支援に努めている。利用者同士と一緒に何かを出来るような機会を持てるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談等があれば管理者が窓口となって対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みのある生活用品等があればご家族に持ってきて貰いなるべく自宅に近い環境で生活できるように努めている。		入居の際家族から情報を聞き、家具や写真を持ってきて自宅に近い環境を心がけている。また買い物など本人の希望を叶えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントに目を通して情報の把握に努めている。 入居後も日々の会話などでこれまでの暮らしの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察して経過記録に記入し把握するように努めている。有する力等の現状の把握については、トイレ、入浴、作業時等に観察して日々、把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの要望や意見があった時、または本人のADLが低下した時はスタッフ間で話し合い改善に努めている。		ユニットリーダーが家族と話し合い、介護計画を作成している。ADLが変化した時はスタッフ間で話し合い、即対応して改善に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は経過記録に記入し、申し送りして職員間で情報を共有し、月一のユニットミーティングで気づきや工夫の話し合いをして介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの新たな要望があった場合にはきちんと話を聞き希望に添えるような話し合いをする機会を持つように対応していると思う。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアプランで本人を支えていた地域資源は何かを把握するようにしている。入居後は主な支援者は職員になるが本人との会話の中で馴染みの物に触れるなどして安心して暮らしてもらえるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医療機関をかかりつけ医として、月二回の往診や診察を行っている。それ以外の既往で他のかかりつけ医がある場合には家族や管理者が付き添い対応している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報や気づきはきちんと報告している。また急変時には当法人の医療機関の看護師に報告し、その後、必要な処置を行なっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が行っている。退院後、受け入れる前には退院時の状況を把握できるように事前に報告してもらっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、看取りの必要性が生じた場合は、ご家族に当法人の医師より状態を説明してもらい、最善の支援をスタッフ間で話し合い、取り組んでいる。		重度化した場合、同法人の医師から家族に状態説明があり、毎年看取りが行われている。高齢化に伴い終末も安心できるような支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践者研修で訓練を受けたり職場でもAEDの講習を受けたが、実践力は身に付いていないと思う。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の防災訓練を行っている。その際、津波に関する避難訓練も行っているが、実際には上手くできるかどうか不安がある。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めて言葉かけをするようにしているが、本人の誇りやプライバシーを損ねないように気を付けたいと思っている。		慣れで言葉使いが悪くならないように定例会で話し合っている。またトイレの際には外で待つなどプライバシー確保にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴をしたくない時には無理強いしないように努めたり、横になって休みたいと希望があれば休んでもらうなど、自己決定が出来るように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まっている為、利用者に合わせて貰っているのが現状だが、気分が乗らない時には無理強いしないよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が持ってきている洋服の中から職員が選んで用意する方が多いが、自分で選んで好きな物を着ている利用者もいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べられない物は把握するようにしてそれに代わるものを提供している。検査者は利用者と一緒に食事をするようにしている。お盆並べやお盆拭きオシボリ巻きなどは手伝って貰っている。		利用者の能力に合わせて片付けを一緒にしている。また食べられないものは代わりを用意するなど工夫し、行事食のときは利用者に希望を聞いて食事が楽しめるよう心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者によってはご飯の量を測って提供したり、刻み食やミキサー食で無理なく食べれるよう対応している。午前と午後水分提供をしたり、本人の訴えがあればその都度水分提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。不十分なところはスタッフが支援している。義歯の洗浄は週1回、ポリドントを使用している。			

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握するようにし、トイレの声掛け、誘導を行っている。オムツは必要時のみ使用するよう心がけている。		布パンツの方も数人いてオムツは必要時のみとしている。利用者の排泄パターンを把握して声かけや誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を取り、内服の調整を行っている。それでも排便がない場合にはテレミンを使用している。利用者によっては食後のトイレ誘導を行い排便を促している。野菜をたくさん使用したメニューを提供している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが無理強いせず声掛けに工夫をしてなるべく気持ちよく入浴して貰えるように努めている。時間的にはゆっくり入浴できていると思う。	職員は利用者一人ひとりに合わせ、声かけに工夫し楽しい入浴となるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子を観察して眠そうな時にはソファ等で休んでもらったり、部屋で横になるよう声掛けをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量については理解しきれていないが、時々処方箋ファイルで確認する様になっている。症状の変化が見られる時には迅速に報告するようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かせるような声掛けを行うように心掛けている。楽しみごと、気分転換等の支援をするには職員の人数が十分ではないので難しいが、今後は行っていきたい。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員不足の為、戸外に出かける機会が減っていたが、昨年からはコロナ禍もあり更に出来ない状況にある。	家族の協力も得て外出支援や、ドライブの計画を立て利用者の希望に沿うよう努めている。現在は新型コロナ感染予防の為行えていないが、日常的に園庭での散歩は支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	輝輝館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を金庫で預かり買いたいものがある時には職員が買ってきてお渡ししている利用者もいる。自分で所持している方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した場合で家族の理解を得ている方は電話で話をして貰っている。携帯電話を所持している方はいつでも自由に使用されている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をして気持ち良く生活できるようにしている。体温調整がうまく出来ない方が多いのでエアコンを使用して調整している。	共用空間は季節を感じる飾り付けがさりげなくされている。室温調整もされソファなども置かれ利用者が居心地よく過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的ホールにはソファを置き、そこで楽しく会話をしたり昼寝をしたりすることができるようにしている。声掛けをして移動したり、自ら行ったりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しく購入するのではなく、自宅で使用していた馴染みの物を持って来て貰ったり、使い慣れた寝具を使用して貰ったりしている。	居室には利用者が使い慣れた家具やテレビなどが置かれている。家族の写真なども飾られ、家族来訪時に使えるように椅子なども置かれ居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	マットレスの固さの調整や、その方に適した手摺設置。バリアフリー。トイレの表記。各居室のドアには名札をぶら下げている。			